三芳町の良さをたくさんの人に知ってもらいたい

地域の人が楽しめる場所。

昨年度から農業センターの利活用を考える会議を重ね
産声をあげた「カミトメマルシェ」に秘められた住民の想いに迫ります。

その日、上富の農業センターはかつてない賑わいを見せていました。7月29日㈯に行われた「カミトメマルシェ」。マルシェとはフランス語で「市場」の意味。8つの店舗が出店し、三芳町産の木を使った手作りのテーブルに採れたてのみよし野菜や加工品が並び、終了予定時刻の前にほとんど完売となるほど大盛況となりました。

「近所の人たちがたくさん来てくれて、農業センターが交流の場になっている光景が嬉しかった」と笑顔で話す運営代表の高橋まゆさん。昨年度実施した農業センターの利活用を考えるアイデアコンペやテーブル作りに参加し「大好きな三芳町・上富の良さを実感できるようなイベントをしたい」と決意。「地域の人たちが楽しめる場所を作ることが、周辺の魅力を感じてもらえることに繋がると思い、無理のない範囲で、できることから始めました」

SNSでイベントの告知をしたり、手作りで顔にはめるフォトプロップスを用意したり、農家やみよし野菜を使用した飲食店など有志メンバーで企画をし、迎えた当日――。

関わる人が増えると地域のファンが増える

「初めての主催イベント。右も左も分からず不安でしたが、イベント出店経験が豊かな皆さんと協力し合い、なんとか終えることができました」と安堵の表情を見せる高橋さん。「アイデアコンペなどを通じて、多くの人が三芳町・上富に足を運び、マルシェにも来てくれました。三芳町に関わる人が増えることが、この地域の〝ファン〟が増えることなのだと実感しました」と確かな手ごたえをつかんだようです。

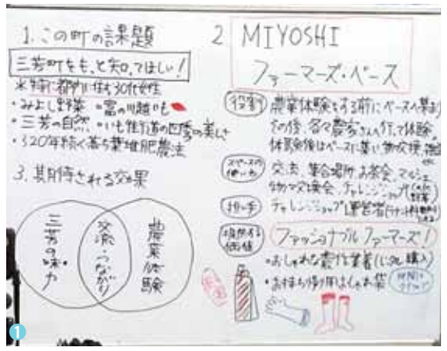
適度に便利、適度に田舎

次回のマルシェの予定を尋ねると「未定ですが冬頃にできれば」と申し訳なさそうに笑い、「一過性の盛り上がりで終わらず、継続していけるように小さな経験を積み重ねていきたい。適度に便利、適度に田舎。野菜が美味しい三芳町の強みと魅力を活かしたイベントなどができればいいですね」と展望を語る高橋さん。今後の動きに目が離せません。■

（写真上）何度も出店者が集まり話し合いを重ねて当日を迎えました。（写真下）マルシェ当日は、多くの来場者で賑わいました。終始和やかな雰囲気。気軽に会話を楽しむ様子。（写真左）カミトメマルシェ運営代表の高橋まゆさん。

まちのFAN=FUNに繋がった事業

富のまちづくり協議会運営事業	アイデアコンペ	手作りテーブルワークショップ
H28.11から全5回 16人の委員で会議	H29.2.21開催 19人が参加	H29.3.20開催 16人が参加



❶❷農業センターの利活用を考えるアイデアコンペで考えられたアイデアと話し合いの様子。この案がベースになっています。❸改修中の農業センター。この場所に出店ブースが並びました。

❶❷❸3月20日に行われたテーブル作りのワークショップ。町の平地林の木材を使用。農業センター利活用を肌で感じ、幅広い年代の参加者に、三芳町に愛着を持ってもらうため実施されました。

古民家の
旧島田家住宅に
隣接しているよ！

ご存知ですか？農業センター

町の農業近代化や知識技能向上、生産性を高め、農業経済の安定などを目的に昭和56年に建設。上富2区の集会所も兼ねています。昨年度、改修を行い、耐震対策とともに一部を地域活性化の拠点として利活用できるようになりました。

三芳町農業センター
上富1279-3

地域コミュニティの場に

自宅でハンドメイドの教室をしていましたが、思い切って地元の藤久保で手作り教室と雑貨屋を約3年前にオープン。今では会話を楽しめる地域コミュニティの場にもなっています。カミトメマルシェでは地元の人が多く訪れ、三芳町は愛されていると感じました。今後も地域を盛り上げる、お手伝いをしていきたいです。

Petit Marche NOIX（プチ マルシェ ノワ）
店主 **角田 亜理砂さん**

カミトメマルシェに藤久保から参加！

カミトメマルシェでたくさんつながりがうまれました！

！ 農業センターで何かをしたい！まずは三芳町観光産業課へ

農業センターのスペースを利用した地域情報の発信などを行いたい場合は、観光産業課にお問い合わせください。☎049-258-0019（内線212・213・219）